

2020. 5. 24 第四主日礼拝

エペソ 1:11-14 「御国を受け継ぐ者」

聖書

- 11 またキリストにあって、私たちは御国を受け継ぐ者となりました。すべてをみこころによる計画のままに行う方の目的にしたがい、あらかじめそのように定められていたのです。
- 12 それは、前からキリストに望みを置いていた私たちが、神の栄光をほめたたえるためです。
- 13 このキリストにあって、あなたがたもまた、真理のことば、あなたがたの救いの福音を聞いてそれを信じたことにより、約束の聖霊によって証印を押されました。
- 14 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。このことは、私たちが贖われて神のものとされ、神の栄光がほめたたえられるためです。

はじめに

先週は、聖霊は私たちが神の子どもであることを証してくださり、キリストと共に共同相続人として御国を受け継ぐことを学びました。今日は、御国を受け継ぐことをもう少し詳しく味わってみたいと思います。

エペソ 1:3 に「神はキリストにあって、天上にあるすべての霊的祝福をもって私たちを祝福してくださいました。」とあり、神さまは私たちに「霊的祝福」を与えてくださったことが記されています。「霊的祝福」とはイエスさまの十字架による罪の赦しとその赦しを得た者は御国（神の国）を相続するということです。御国を相続するということがどのような意味なのか、聖霊の助けを仰ぎながら味わってみましょう。

1. 御国を相続するとは

新改訳聖書で「御国を受け継ぐ」と訳されていることばは、他の訳を参照すると「相続人とされること」「相続人に定められること」「特権を与えられ

ること」という意味があることがわかります。文法的にはアオリスト形の動詞が使われていて、御国を受け継ぐことが一度限りの出来事として強調されています。それは、私たちが相続を受け継ぐ「神の子ども」という立場にされたことの幸いを意味するとともに、神さまは私たちに間違いなく、確かに与えたという絶対的な確信を表していることばなのです。このことは、御国を受け継ぐ側の者にしてみればとても心強いです。私たちの信仰は強いようで実に弱いです。身の回りの出来事に一喜一憂し、自分の行いを見てはこんなんでクリスチャンと言えるだろうかと悩み、私は本当に天国に行けるのだろうかと迷ってしまうことがあります。教会から一歩外に出れば、周りにクリスチャンはほとんどいません。自分がクリスチャンであることを知られないように生きている人もいるでしょう。そういう生き方をしていると、信仰をもっていることに何の意味も見い出せなくなり、だんだんと信仰から離れて行ってしまいます。もし、そのような状態の人がいたならば、次のみことばを思い出していただきたいのです。「キリストにあって、私たちは御国を受け継ぐ者となりました。すべてをみこころによる計画のままに行う方の目的にしたがい、あらかじめそのように定められていたのです。」(11 節)。

イエスさまを信じた「あの時」に戻ってみてください。クリスチャンはみな、イエスさまを信じたときを持っています。「あの時」、信じた者の内に確かに聖霊が宿り、その聖霊が「あなたは御国を受け継ぐ者となりました。」と強く宣言してくださったのです。その約束は今もこれからも有効です。今一度、イエスさまを信じたときに戻り、信仰を持ったことの幸いを味わうことができたら感謝です。

2. 天に宝は蓄えられている

では、御国を受け継ぐことの幸いとはどのようなものでしょうか。「御国を受け継ぐ」ことが、1 ペテロ 1:3-5 に次のように記されています。「私たちの主イエス・キリストの父である神がほめたたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえら

れたことによって、私たちが新しく生まれさせ、生ける望みを持たせてくださいました。また、朽ちることも、汚れることも、消えて行くこともない資産を受け継ぐようにしてくださいました。これらは、あなたがたのために天に蓄えられています。あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりの時に現されるように用意されている救いをいただくのです。」

ここにある「朽ちることも、汚れることも、消えて行くこともない資産を受け継ぐ」ことが御国を受け継ぐことと同じ意味で、私たちが受け継ぐ資産はすでに天に蓄えられているのです。それをいただくのは、私たちが天国に帰ったとき、もしくはイエスさまが再臨されたときです。天に私たちが受け継ぐ神の相続財産（祝福）が用意されているということが、地上に生きる私たちにとって大きな意味を持って来ます。それは、私たちがいつもイエスさまを見上げ、天国を目指して生きていることを確認させることになるからです。

私たちは毎日、何を食べ、何を着て、何をするのかという地上のことで頭がいっぱいです。地上のことでいっぱいの中、天のこと、イエスさまのこと、御国のことなどを思う想いを持つことは大事なことで、それをイエスさまが山上の説教の中で「天に宝を蓄えなさい」（マタイ 6:20）と言われたのです。イエスさまが天に宝を蓄えるように言われたのは、「あなたの宝のあるところ、そこにあなたの心もある」（マタイ 6:21）からです。天に宝を蓄えるのは、良い行いをして天に功德を積みなさいということではありません。善事善行の奨励のように理解していたならそれは違います。地上のことばかり見ていないで、あなたの宝が用意されている天を見て生きなさいということです。私たちの地上の歩みは寄留者としての束の間の歩みです。永遠の世界から見たら、たかが何十年という瞬きにも満たない一瞬を地上で生きるのですが、人間はその地上のことがすべてとなってしまいます。地上のことしか見ていない目と心を天に向け、そこにおられるイエスさまを見続けて

生きることが大切なのです。イエスさまを見続ける延長線上に、御国を受け継ぐ恵みが用意されています。

3. 天に名が書き記されている

もう一つ御国を受け継ぐことの幸いがあります。それはイエスさまが弟子たちを二人一組にして派遣した時のことです。弟子たちはイエスさまの御名を使い悪霊を追い出し、病人を癒しました。喜び勇んでイエスさまに報告したときに、「霊どもがあなたがたに服従することを喜ぶのではなく、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」(ルカ 10:20) と言われました。私たちは何を喜ぶべきなのでしょう。自分の功績や業績ですか。自分の名誉や地位ですか。この世に蓄えた財産ですか。人々の評価や評判ですか。これらを喜びの中心に据えている人は、それが奪われたときの失望と落胆は大きいでしょう。私たちはこの世の功績、業績、名誉、地位、財、富、評価、評判を喜ぶのではなく、自分の名前が天に書き記されていることを何より喜ぶのです。

天に名が書き記されているとは、そこが私たちの本当の居場所だということです。もし天国に帰ったとき、自分の名前がなかったならどうしようと心配するには及びません。なぜなら、イエスさまを信じているお互いにとって、すでに宝は天に蓄えられており、名は記されているからです。自分の行いで自分の信仰を計って、自分はダメだと思っている人がいたら、それはサタンの思うつぼです。サタンは信仰者から自信を無くさせ、御国を見せないように働いているのですから、その罠にはまってはいけません。天に名が書き記されていることは、すなわち天での豊かな愛の交わりが用意されているということです。聖書は天の御国の幸いを婚宴にたとえています。花婿であるイエスさまが花嫁である教会(=私たち)を迎えてくださる婚宴の場が天の都、神の国です。父なる神、御子なるイエス、聖霊なる神の三位一体の愛の交わりに私たちも招かれて、その席が予約済みとして用意されているのです。

地上のことばかりを見る目と心を天に向けましょう。そこに招かれることの喜びを毎日の生活の中に覚えることができたなら、苦しく辛い地上の現実も乗り越えられるのではないのでしょうか。仮住まいである地上のことに没頭して、本当の住まいである天の都（御国）を見失ってしまうことがないように祈ります。

4. 御国を受け継ぐ保証

このような御国を受け継ぐことの幸いを忙しい地上の歩みの中でしっかり見続けて歩みたいと願います。私たちの御国での幸いを保証してくださるのが聖霊です。「約束の聖霊によって証印を押されました。聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。」（13, 14 節）。

証印は契約書に対して同意することを表す大切なものです。ある牧師の書き物の中に、「聖霊によって証印を押されるとは、神ご自身が、私たちが正真正銘、神の子どもであることを証明し、私たちが間違いなく神の所有（もの）であることを証明し、神の子とされた私たちがこの地上生活におけるあらゆる危険や誘惑から守られることを保証され、将来的には完全な御国を相続するという保証を意味しています。」とありました。私は心からアーメンと同意します。

14 節の「保証」ということばは「手付け金」という意味です（欄外の注釈参照）。私たちが受け継ぐ天の御国の手付け金はすでに払われています。聖霊ご自身が手付け金なのですから。私たちは聖霊を頂いた者であり、聖霊と共に歩む者です。その道に留まり続ける限り、私たちが天の御国の住人から漏れることは決してありません。その信仰に立ち続けて生きるのがクリスチャンの生き方です。

まとめ

聖霊が御国を受け継ぐことの保証となって、私たちを守り導てくださいま

す。そのことを信じて、今ある自分を肯定し、喜び、感謝して生きて行きましょう。「私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いたちも、支配者たちも、今あるものも、後に来るものも、力あるものも、高いところにあるものも、深いところにあるものも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」（ローマ 8:38, 39）。聖霊は私たちをキリストの愛から決して離しません。聖霊は私たちをキリストの愛から引き離す世のあらゆるものから守り、御国への保証となってサタンに立ちはだかってくださいます。インマヌエル賛美歌 687「御国に住まいを」の1節を紹介して、聖霊の約束とします。「御国に住まいを 備えたまえる 主イエスの恵みを ほめよたたえよ やがて天にて 喜び楽しまん 君にまみえて 勝ち歌を歌わん」。